

世界の水銀被害 ～金の採掘による水銀被害～



『環境首都水俣』に学ぶ水高生から世界への「いのち」の発信

水俣高校2年生 2名

ブラジルで起こっている水銀被害のメカニズム

ブラジリアマゾン川流域

ブラジリアマゾン川流域では400年前の砂金の採取が始まった。金は川底の泥などの堆積物や熱帯雨林の土壌の中に砂金の形で存在する。現地の言葉では砂金を採掘するところを「ガリンポ」、砂金採掘者を「ガリンペイロ」という。

汚染された魚を地域の住民が食べ、水銀を扱う労働者が水銀を吸入するなどして、体内に取り込むため水銀中毒になる。

ブラジルでの金の採掘の現状

- ・ブラジルでは東西南北に砂金がある
- ・1990年代の10年間の公式記録だけで500トンの金が産出
- ・金と水銀の合金にして金を採取するために使われた水銀の量は水俣の海に垂れ流された水銀の数倍に当たる2000トンに達すると推定
- ・水銀の汚染は砂金の採掘場から数百キロも下流に広がっている

検診

3つの村に住む頭髪水銀値が20ppm以上の砂金採掘労働者を調査した

結果

56歳の漁師→→感覚障害、運動障害、震え

分析された頭髪の水銀値の最高は79.1ppm

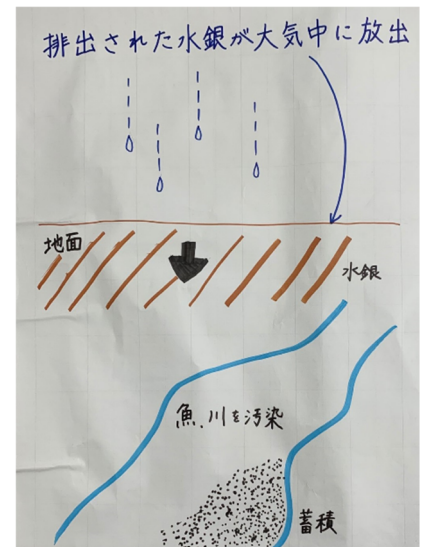
最低は42.9ppm

調査

同じ漁村に住む19歳の漁師と23歳の漁師の妻の頭髪水銀値を調べた

結果

無機水銀値→19歳の人が16.0～27.1ppmで23歳の人が30.0～35.6ppmだった



課題と問題点

水銀被害が今もなお起こっている地域がある

そこで水銀被害にあった水俣から世界に発信していく

参考文献

世界の環境問題（極地、カナダ、中南米）

いのちの発信

水俣市は水銀被害によって多くの犠牲者を出した。今もなお水俣病だと認められず苦しんでいる方がおり、国や県、市も責任問題を問われ、解決へと向かっている。世界にはもっと多くの国が解決策が見つからず子どもから大人まで被害にあっている。そのため、金を採掘するのにもリスクを伴うことをたくさんの人に知ってもらい金を採掘する際に水銀に触れないような解決策を見出してほしい。